

台湾鉄道遺産 台北・苗栗・彰化・南投・高雄ほか

国家鉄道博物館/彰化扇形車庫/哈瑪星鉄道文化園區/台中駅鉄道文化園區

テーマ:歴史・文化



台湾鉄道 150 年ルート

台湾の鉄道は 19 世紀後半(1870 年)に始まり、日本統治時代を経て大きく発展した。台湾各地には、当時の駅舎や鉄道施設が残り、台湾の近代化を伝える貴重な文化遺産となっている。

台北の「国家鉄道博物館」、台中の「旧台中駅」、苗栗の「旧山線」、彰化「扇形車庫(2022 年国定古跡に指定)」、南投の「集集線」、高雄の「ハマシン鉄道文化園區」などを巡ることで、「19 世紀に始まる台湾鉄道史約 150 年」の歴史をたどることができます。



【苗栗・南投・高雄】苗栗にある「龍騰断橋」は 1900 年代初頭に作られたレンガ製のアーチ橋で、1930 年代の新竹・台中地震で断橋になった。台湾と日本の鉄道のつながりは深く、檜造りの駅舎が残る南投の「集集線」や、日本では引退した旧型車両の走行、日本統治時代の機関車も保存されている。「旧打狗駅故事館」など、珍しい鉄道遺産が豊富にある。

企画視点

主要都市:台北・苗栗・彰化・南投・高雄

【台北】 主要都市:台北

台北駅から車や台北MRTでおよそ 30 分

【彰化】

台鉄「台中駅」から「彰化駅」まで片道およそ 30 分、

彰化駅から彰化扇形車庫まで徒歩でおよそ 10 分

【苗栗・南投・高雄】 主要都市:苗栗・南投・高雄

旅行会社の企画視点



台湾各地に残る鉄道遺産を巡りながら近代化の歴史を体感できるテーマ性の高い観光ルート。台北・台中・彰化・南投・高雄など都市観光と組み合わせやすく、鉄道ファンや歴史愛好家向けの周遊型ツアーとして企画しやすい。

地域資源の視点



台湾各地に残る駅舎や鉄道施設は、日本統治時代から続く鉄道文化と近代化の歩みを伝える歴史資源。彰化扇形車庫や旧山線、集集線などの鉄道遺産が地域の歴史景観を形成し、台湾鉄道文化を象徴する地域資源となっている。

イベント:

・鉄道フェスティバル(鉄道節)6 月 9 日

台湾で最初の鉄道(基隆～台北)の建設を開始した日

・毎年 3 月 八卦山鷹観賞フェスティバル関連イベント

関連情報リンク先

台鉄公司 [国営台湾鐵路株式会社](#)

台湾観光庁 [鉄道の旅](#) > [交通部観光署](#)

問い合わせ先 / 画像提供:台湾観光庁